



今昔物語部 十一目錄

○世俗傳

- 一 安房守文室清忠落冠語
- 二 伊豆守小野五友目代語
- 三 中納言紀長谷雄家鬼語
- 四 大藏大輔藤原清康怖猫語
- 五 三善春家忍蛇語
- 六 筑前守藤原章家侍頼方錯語
- 七 右近馬場殿上人種合語



今昔物語 倭部 十一

○世俗傳

一 安房守文室清忠落冠語

今いじりし。安房守文室清忠

按姓名録文室真人天武天皇皇子長屋王之

後やうふの。外紀にそ有り此の事なる。其うも終
片に。面いそりうがうて。氣徳氣み月とんらん。又出羽

守大江時棟

大江系圖
時棟不見

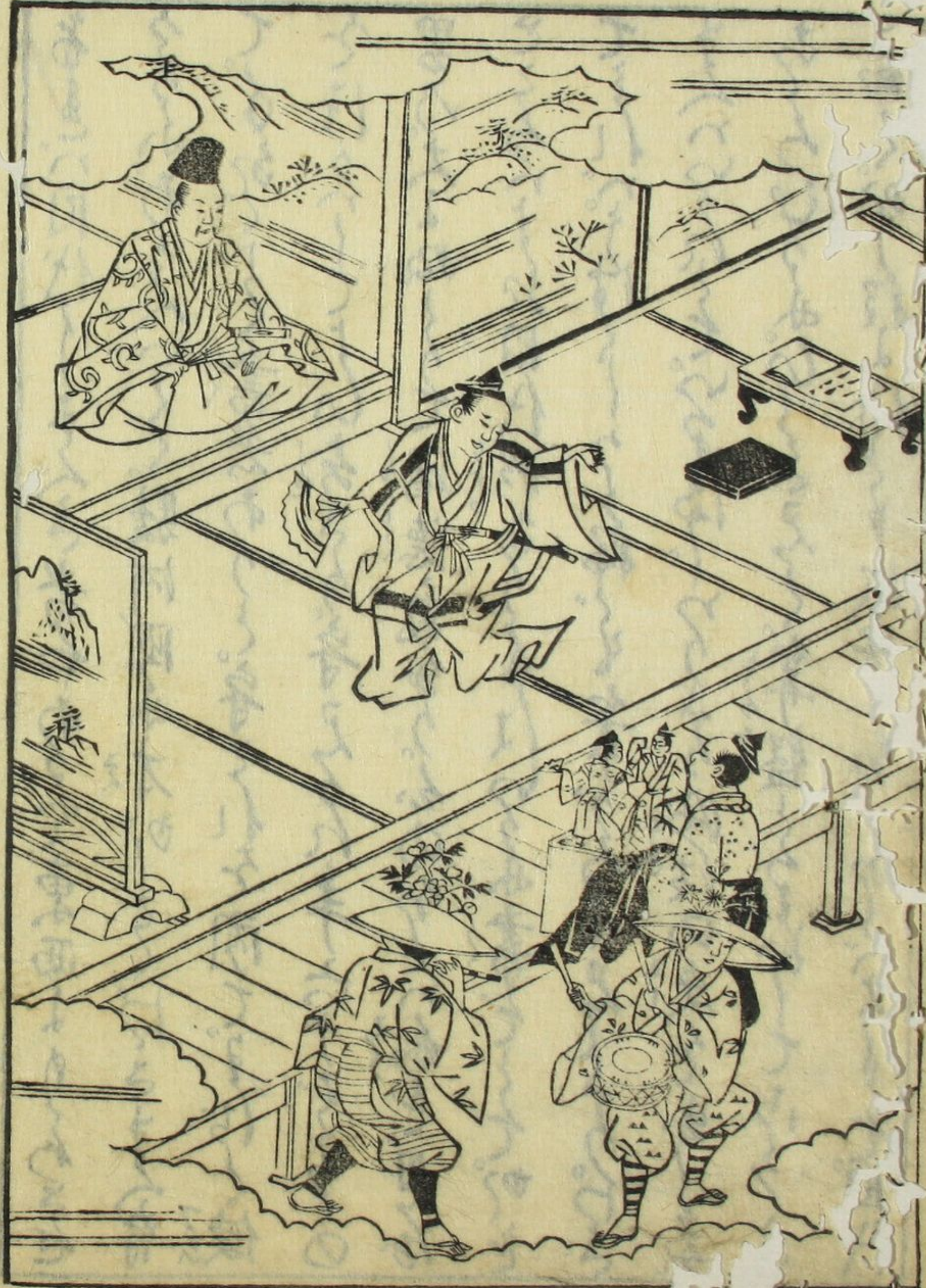
とつ者。是く同時よ外紀有り。

腰座して呼吸づとるものなり。はあ人除目の。陣
陣の定め。陣乃し。清忠時棟をい

まの。此をそをぬらん。時よ。易なる。口の中

今昔物語 朝卷十一

今昔物語 朝卷十一



仰て万の事とてをいひてはまてついでいふ。二
 年ぐらゐにかりぬれども。守が親をせにきくま
 ようげぬるやとをいひにぞあつてこゝろなりぬ。守を
 大い感^えじて。圓の四つを。あつてとて。あつては。教^しを
 きて。ぐらゐ。いひ。館^{くわん}の人。圓^まれ。軍^{ぐん}に。も。む。き。を。け。り。け。り。
 わりた。老^{らう}を。ぞ。用^{もち}。も。さ。る。隣^{りん}。圓^まを。ぞ。り。の。り。さ。る。日^ひ。代^{しろ}。
 かりと。聞^き。え。さ。る。あ。つ。あ。る。日^ひ。に。日^ひ。代^{しろ}。守^{しゅ}。が。あ。つ。
 居^い。く。文^{ぶん}。書^{しよ}。も。も。多^{おほ}。く。取^と。教^し。下^か。文^{ぶん}。も。も。多^{おほ}。く。書^か。也^{なり}。そ
 ち。に。中^{ちゆう}。と。わ。り。さ。る。あ。つ。鬼^{おに}。偶^ぐ。子^こ。も。も。ゆ。わ。く。守^{しゅ}。が。館^{くわん}。
 ち。に。な。ま。さ。り。つ。あ。つ。い。ひ。と。さ。る。い。ふ。あ。つ。い。ひ。

新編物語 朝野群載 卷十一

一、ふくめをぞ下りぬ。彼目代、傀儡子、かきつゝ、木柵子、
うり終て。と、度柵子に、官紙指、守り、さかちり、つゝ、
しゝく、ん、指、した、傀儡子、目代、が、氣、色、を、と、て、
め、う、い、と、や、き、ば、目代、は、け、く、あ、う、よ、ち、り、と、お、く、
び、ら、お、を、お、し、く、傀儡子、が、守、り、は、く、く、く、く、
守、り、し、く、わ、ち、と、て、こ、は、い、う、お、く、と、う、終、り、目代、を、
け、ど、ぞ、ら、し、と、て、び、う、れ、事、り、と、れ、ご、と、せ、り、い、ま、
う、終、ら、し、と、て、お、び、り、く、れ、ば、傀儡子、も、い、う、く、く、
く、ち、う、り、館、の、老、ぶ、い、を、み、く、奥、ど、り、い、て、の、じ、
つ、う、終、り、目代、と、ら、て、逃、れ、う、り、守、り、し、く、と、わ、ち、

が、り、て、傀儡子、も、い、う、あ、り、事、と、同、い、傀儡子、の、い、
と、く、び、入、り、つ、く、ゆ、じ、と、ぬ、傀儡子、は、け、り、と、作、が、の、紙、書、
文、を、讀、算、と、習、く、傀儡子、と、わ、ち、く、は、く、の、身、と、ぬ、
團、乃、湯、目代、よ、あ、り、終、り、と、あ、り、ぬ、と、い、は、ぬ、
を、つ、と、わ、く、と、さ、ら、事、も、中、く、ま、ら、し、と、い、
と、中、作、ち、り、や、し、け、り、と、い、う、と、て、館、の、人、の、團、乃、軍、
と、傀儡子、目代、と、あ、り、を、つ、く、い、う、ら、さ、い、
け、し、と、い、守、り、は、く、と、て、か、紙、は、く、い、
と、え、く、と、い、う、り

三 中納言紅長谷雄家の通話

今いじう。中納言紀長谷雄といふ怪士。才賢くも賢
 廣く。厚んごれと人として力をいれども。陰陽の方をよ
 少もさうざうさう。さうらふあつた物ありて。家の垣
 を越く尿とさひきこび。あやこびいて。陰陽師をよび
 てうかりそへに。其月の其日ぬ。鬼家内。現ぶとぶし。
 但一人を祀り。あやうとあまといわじ。されども其日の物
 忌みとぶし。その日ぬ。其日ぬ。あつて。物忌のものをいひ
 多。学ばせども。ぬわらち。作文として。括りうらうらに。あよ入
 て。塗籠の内より。おそくし。げらるあやうと。味をいれ。括
 かし。いころ。学ばせども。是いつく。あやう。おそく。速く。あやう。

一物。まに。いひ。て。塗籠の戸をあけ。され。内より。さう
 づら。あつた。もの。あつ。ん。長。二人。さう。い。く。須。い。う。く
 身。白く。四。足。あつ。て。角。一。つ。あつ。る。あ。の。く。ね。も。た。あ。い
 くる。ふ。中。い。し。つ。て。あ。ま。い。け。と。人。と。あ。み。う。て。化。物。が
 尻。を。け。て。跳。り。さ。し。い。尻。う。ぶ。つ。る。黒。い。お。あ。け。て
 叩。く。と。落。り。さ。う。の。と。た。よ。ん。た。い。白。物。を。り。是。い。は。物
 椽。の。尻。を。け。し。く。あ。ま。い。け。と。人。と。あ。み。う。て。お。ま。を。あ。つ。さ。り。
 う。を。い。し。さ。う。さ。う。た。あ。つ。る。ぬ。跳。り。し。う。ぶ。お。び。う。ら。い。は
 椽。も。も。て。物。と。い。は。れ。ら。ち。り。あ。つ。の。鬼。い。あ。つ。糸。は
 ま。の。あ。つ。り。く。目。よ。鬼。と。い。ふ。ま。ま。い。は。鬼。と。い。う。さ。い。を。り。

今昔物語(新編) 卷之十一

ちり人をとれしむりてあはれものよあはれしむりて
といふさまありてやまかたりはしむりて

四 大藏大補を承清廉怖猫語

今ひびく。大藏大補を承清廉といふ者ありしが
生い荒くやわろそん猫をとりて承清廉が
いふありていふまじきまじき猫をとりて承清廉
いふ程大物の用事ありていふまじきまじき猫を
さぐりて承清廉といふまじきまじき猫をとりて承清廉
いふまじきまじき猫をとりて承清廉といふまじき
まじき猫をとりて承清廉といふまじきまじき猫を
とりて承清廉といふまじきまじき猫をとりて承清廉



浦公朝光。清通二男從四位下 大和守なりしが其國

右馬ゆ木エカ藏人

官物を清廣に譲り給ひしに浦公はこれ諸司の五位に
おぼしめし其下の田舎人めとわび諸司の五位に
てまゐり給ふ者ありしに。麻をふ下とてまゐり
あはれ給ふとてゆるぐとて。是はいつとて。いつと
とつれが不圖とて居りしに。清廣ありしに。は
幸と悦びしに。侍所の宿直壺屋二間をとりありしに。
清廣とよび入る。遣戸を外よりけりしに。清廣は
しりませ。忠告して。閑ゆべとて。事ありしに。奥の方へい
りしに。大和の任とて。み今年よりけりしに。い

して官物のゆはをば。今まで延びしに。せとありしに。
清廣其まゝに。任じ。國ぐるりの事にも任じしに。し
任じしに。ゆはをば。任じ。事ありしに。おそなり
ゆり。今年来れ。秋の時ありしに。一年來少のきりしに。
任じしに。ゆはをば。任じ。度く任じしに。ゆはをば。
にわし。任じしに。是より。任じしに。任じしに。東大寺
任じしに。ゆはをば。任じ。たわし。任じしに。ゆはをば。
任じしに。ゆはをば。任じ。たわし。任じしに。ゆはをば。
任じしに。ゆはをば。任じ。たわし。任じしに。ゆはをば。
任じしに。ゆはをば。任じ。たわし。任じしに。ゆはをば。
任じしに。ゆはをば。任じ。たわし。任じしに。ゆはをば。
任じしに。ゆはをば。任じ。たわし。任じしに。ゆはをば。

福茶叔と種物瓜。五百石が方より下文を書きつづるに
くれば。下文をぬく。清原瓜出して。下文と郎宗にのち
清原瓜具して。宇多那の家よりけりて。下文のまゝに
あつて。下文をぬく。さうして。清原が種は。か
れを。鳴呼の事と。いふこと。大和守浦公頼長の家
へ。は。松あつる。吉のうま。あつる。倍つて。いふこと。

五 三右衛門春家忌蛇諾

今いむ。と。後女。この春春家
姓氏録曰三善宿祿百俯
園造右大王之後也
や。つ。あ。わ。り。あ。い。の。蝦蟇。と。や。あ。き。ん。ま。い。り。て。蛇。と
お。も。い。ら。る。あ。つ。た。夏。は。か。り。ふ。津。敏。の。辰。己。の。ま。ま。れ。

ふのあづな。敏と人君達。こと人わて。と。い。ふ。ら。る。この
春家も。あ。つ。る。その。こと。い。ふ。ら。る。こと。人。わ。り。の。鳥。蛇。と
い。ふ。ら。る。あ。つ。た。夏。は。か。り。ふ。津。敏。の。辰。己。の。ま。ま。れ。
さ。も。大。か。る。蛇。居。る。ら。ま。た。よ。か。り。ま。る。ふ。ま。ま。あ。つ。た。地
敷。色。い。ん。さ。り。ら。る。藍。の中。に。ぬ。く。あ。つ。く。を。え。ぐ。た。れ
た。ま。あ。つ。て。ま。り。と。さ。ひ。ひ。く。ふ。ぐ。ん。と。あ。い。け。ら。る。二。度。ぬ
と。れ。ぬ。あ。つ。く。て。あ。つ。た。あ。つ。ら。る。當。瓜。を。ゆ。む。と。津。敏。の。東。乃
門。より。這。く。ぬ。北。へ。り。一。ま。あ。り。る。お。洞。院。ま。で。そ。れ。り
南。よ。り。つ。た。ま。こ。じ。が。土。師。門。の。あ。つ。く。も。入。り。る。妻。子。だ
こ。は。い。ら。る。ま。ま。の。あ。つ。ら。る。と。い。ふ。人。と。い。ふ。物。と。い。ふ。人。

御書御記の御書卷十一
てとれたあまきども。人ごらまね。湯をけみそげも
歯はくひあをそてり。身い火の中り。熱きる。妻子
肝をまして。あやむじころ。官の報色一人。跡り
はきてあひしが。あひくうり。ほも。妻もむも。色例の
物ぐれり。ま。物ゆそれ。ちる。せ。あひく。然れ共
ども。い。と。ゆん。と。あひ。の。こ。た。け。く。あ。き。ざ。り。け。ら。が
後。一。箇。つ。ま。て。退。り。ん。ぞ。あ。り。る。五。位。程。の。老。乃。書。舟
ぬ。大。路。を。あ。り。て。持。費。の。そ。と。あ。く。喘。ま。り。て。七。八
町。と。な。り。と。な。り。の。わ。く。と。も。は。く。あ。い。も。か。ん。と。ぞ

かろりける。そのら一月ごりあつて。春家は後よ
あつたるに。あつて。その。氣。色。を。う。け。き。い。人。く。こ。ご。り。と。
後いあつて。と。ち。を。あ。り。ゆ。え。ら。り。と。也

六 筑前守藤原章家侍頼方錯詔

今いひ。筑前守藤原章家侍頼方錯詔
堤中納言兼輔四代
孫豊後守義貞嫡子
位下 中いり。人。あ。り。其。父。を。定。任。と。り。子
系圖無、筑前守
所見
中いり。時。家。の。年。つ。て。官。も。さ。だ。四。郎。君。と。あ
曹。目。任。と。て。亦。あ。り。小。家。人。の。中。に。頼。方。と。て。平。ら。目
兼。く。も。く。頼。方。と。く。い。ら。り。ま。き。氣。色。と。て。あ。り。り。侍
あ。り。あ。り。り。と。い。ふ。事。あ。り。た。り。と。い。は。り。り。

大長屋の中此間迄わたり。たは南。太い少く引きて。皆
着せぬ。遊人下の之を滝といひ。皆つら積む。是を遊
人といふ。またあは。居る。皆より。あは。南。北向。橋。勝負。負。乃
舞の新。錦。乃。平張。と。ま。其。内。一。樂器。と。ゆ。う
も。舞人。樂人。多。か。の。く。居。る。と。ま。わ。は。い。ま。市。中。は。と
中下。見物。市。伝。ふ。と。女。車。一。立。あ。く。と。ま。中。は。南。向。殿
と。思。ひ。て。女。車。の。中。へ。あ。て。皆。より。東。の。方。を。乃。西。へ
ま。ま。く。流。し。流。あ。り。さ。う。の。程。よ。う。の。と。た。ま。り。あ。れ。ば。大。長
屋。の。あ。り。な。り。な。り。敷。く。は。ま。ま。り。の。わ。り。く。い。ま。と。
い。ま。も。く。其。中。に。向。は。ぬ。は。ぬ。居。り。負。ふ。は。ぬ。と。ま。

大長屋の中此間迄わたり。たは南。太い少く引きて。皆
着せぬ。遊人下の之を滝といひ。皆つら積む。是を遊
人といふ。またあは。居る。皆より。あは。南。北向。橋。勝負。負。乃
舞の新。錦。乃。平張。と。ま。其。内。一。樂器。と。ゆ。う
も。舞人。樂人。多。か。の。く。居。る。と。ま。わ。は。い。ま。市。中。は。と
中下。見物。市。伝。ふ。と。女。車。一。立。あ。く。と。ま。中。は。南。向。殿
と。思。ひ。て。女。車。の。中。へ。あ。て。皆。より。東。の。方。を。乃。西。へ
ま。ま。く。流。し。流。あ。り。さ。う。の。程。よ。う。の。と。た。ま。り。あ。れ。ば。大。長
屋。の。あ。り。な。り。な。り。敷。く。は。ま。ま。り。の。わ。り。く。い。ま。と。
い。ま。も。く。其。中。に。向。は。ぬ。は。ぬ。居。り。負。ふ。は。ぬ。と。ま。



物り風流財をほりし金銀もつらかた
つゝ負ぶる女居あまどどどに人合をてきぐいし勝
負わらう間言ははくし論とら重んどもゆわくはま
あぐらみちりてたの方より近衛侍人下路公忠其
ころいりく盛まりしがたは競馬の装束れらりて
そ着きて毛あぐらり馬馬具をけくして
かぐしきう統よきそて方屋の南よりる場よ出て埒の
内はわくくし鞭と取らぬしてまら神りつとも興中
少は法人をんれちうあし右の方屋よりむは師
のまらりくこれぞありぬ冠とせく太の競馬の

将装束の揃りくきこれに瓜きせて枯莖をたかいたる也
お茶と片火ぐこに下腰し色をも袴ハ踏合をて襦袢
乃ちうたう瓜女牛み結袴といふものをもとぞ統よ
そきて出いり公忠これをもく太まらりて由かた
船系のおもやまははとてうは恥瓜とけうといひて
とそく入ぬも何うたの方み公忠が喚く入るもみそ
ら瓜もたれ知つと相撲の肩こ入ら瓜あさる
みいりけりつと同ぐ右の方み恥ををぬく
落路の集はりて落路乃舞をぬかむより舞負
舞あつてまらりてなめも陸上の舞とゆき

寺務草の甲明卷下

いづれともいふまじく事なるがうりけく落路生
とはたよりの何なるものぞとりの合なる小園白飯を
さす。女車中へはく歩路とけるが。落路の出る伝
昇候なりとゆかりなり。人をなぐの落路の舞
人をのりちや作らる。何よ。落路は舞人の多好候を
あらが。面影をぬきて。人乃見えぬもありとゆき
まれば。面影とまぬぐ馬よまぬ。西大宮もんに
ゆく申の魁ぶりの来たるふ。大踏乃人かれん鬼
晝中に馬よまぬ。ゆきとりののまぬ。ねそれさ
あはゆらゆらゆてまよりの鬼とまぬ。うらや。病

付らる者も有まら。園白飯いまじく落路と切なる
落路の物なり。中やんとゆかりとゆかりと作を給
いりやん。ゆかりのあはるもまぬ。ゆかりと作を
ゆかりをなきて。ゆかりとゆかりとゆかり。ゆかり
ら。ゆかりとゆかりとゆかり。ゆかりとゆかりと
又右の方人を頭の中ねよりけり。ゆかりとゆかり
ゆかりとゆかりとゆかり。園白飯だの方にもまぬ。
まぬとゆかりとゆかり。ゆかりとゆかりとゆかり。
てゆかりとゆかりとゆかり。ゆかりとゆかりとゆかり。
ゆかりとゆかりとゆかり。ゆかりとゆかりとゆかり。

中六清路の舞人乃。面影とちれけりてせそめい
ふまじと世の人とていなる。のちのてみまふ。ひ
よと。のびるものありたりとさん。のちのけい
やちり

今昔物語十一



